

# 令和6年度 都城市立小松原中学校 学校評価書

(4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要す)

令和7年2月10日版

目標	数値目標	評価項目	自己評価	生徒	保護者	現状分析	次年度に向けての改善策	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
豊かな人間性の実育成	①学校が楽しいと思う割合を90%以上を目指す。 ②人権宣言を意識して生活している割合を90%以上を目指す。	言語環境の整備	3.0	3.4	3.2	○言語環境の整備、道徳科の充実については概ね高評価である。 ○コミュニケーション能力の向上については職員の評価と生徒・保護者の評価に大きな差がある。特に「自分自身で判断して、時と場に応じた適切な言葉遣いや行動ができている」についての評価に差があるようである。	○「時と場に応じた適切な言葉遣い」について、ソーシャルスキルトレーニングを通して身に付けさせたい。また、生活アンケート内にある「汚い言葉を使うことがある」「乱暴な言葉を使うことがある」「人を傷つける言葉を使うことがある」など言語環境に関する項目の回答結果を随時生徒に示すなど、適切な言葉遣いについての意識を喚起する。また、生徒会主体であいさつ運動や人権宣言の具現化の取り組みを進め、人権意識の向上に努める。	3.3	○言語環境の整備、道徳科の充実の高評価は先生方の指導の工夫の結果であり、評価できる。 ○コミュニケーション能力の向上に向け先生方が常に適切な言葉遣いの実例を上げながら指導助言されていることは評価できる。 ○人権意識の向上を生徒会主体で取り組ませている先生方の指導が伺えて評価できる。 ○コミュニケーションの入り口である挨拶は、多くの生徒ができると思います。一部できていなかった生徒についても、学校・地域の中で根気強く声掛けすることなどで改善してきていると思います。 ○先生方が一人一人の特性を理解して指導されていることに感謝申し上げます
		コミュニケーション能力の向上	2.7	3.4	3.0				
		道徳科の充実	3.0	3.7	3.1				
	総合評価		3.2						
確かな学力・努力の育成	①家庭学習(平日)2時間以上の割合を4月当初より10ポイント以上増やす。 ②図書室の貸し出し冊数を昨年度より10%以上増やす。	基礎基本の定着	3.0	3.3	2.9	○全項目とも生徒の評価は3(ほぼ期待通り)以上である。学習に対して前向きかつ理解できているという肯定的な回答であった。しかし、保護者の評価では全項目で3未満である(2はやや期待を下回る)。特に主体的に学ぶ態度や家庭学習については教師と保護者の評価は3未満である。さらには家庭学習の項目が保護者の回答が2.5となっており、生徒との乖離がはっきりと分かる。 目標②図書室の貸し出し冊数は、昨年の86%にとどまっている。	○基礎基本の定着についてはICTを用いて小テストを行い、点数を見える化し保護者が変容を見られるよう工夫していくことが大事である。 ○主体的な学習と家庭学習についてはキャリア教育との関連を図った進路学習と結びつけていったり、家庭学習の充実のための課題等を増やしたりすることが考えられる。 ○家庭学習でも自学ができる端末用アプリの「キュビナ」を今後多く取り組んでいきたい。併せて、家庭に持ち帰っての端末を扱うことになる機会が増えれば端末の使用上の注意を各家庭でもお願いしたい。	3.3	○保護者と生徒との乖離は常であり、それを近い評価にする為先生方が多方面にわたり研究された指導が伺えて評価できる。 ○肌感覚ですが、生徒の多くは主体的に学習に取り組んでいると感じています。キャリア教育との関わりが重要ですが、学校は積極的に取り組んでいると思います。ただ「働くこと」を将来の自分事として生徒が認識しているかという点について検証が必要だと思います。 ○できない生徒への対応(学び直し)をそのままにせず時間の許す限り指導をしてほしいです。なかなか家庭では指導できません。地域の方にも協力いただきながらサロンを開講し学力向上に努めることもご検討いただきたいです。
		主体的に学習に取り組む態度の育成	2.7	3.3	2.7				
		家庭学習の充実	3.0	3.2	2.5				
	総合評価		3.0						
たくましく生きる心と体	①体力テストでAランク10%以上、Dランク10%減少を目指す。 ②各種治療率を前年度より10%以上を目指す。	体力と競技力の向上	2.6	3.5	2.9	○体力の向上と競技力の向上については、概ね肯定的な回答が多いが、生徒・保護者・職員の間で認識のズレがある。 ○自己管理能力については、規則正しい生活・睡眠時間の確保の項目で肯定的な意見と否定的な意見が混在していることから、まだまだ改善の余地があると推測せるので、もっと生徒と保護者の認識を高める必要がある ○食育の推進については、概ね食に対する意識は高いと推測させる。	○体力の向上と競技力の向上については、これまで以上に取り組んでいきたい。また、生徒・保護者・職員間での情報共有も心がけていきたい。 ○自己管理能力の向上については、生活リズムや睡眠時間の確保を優先して生活の中に取り入れるように意識させていきたい。 ○食育の推進については、これまで通り、食への感謝の心をもたせ、一層食は体作りの基本であるとの意識を高めていきたい。	3.0	○生徒と先生方、保護者との認識は今年度もズレが大きいが、先生方はそれを十分理解されていて、改善の努力が伺えます。 ○ほとんどの生徒がほぼ同じ時刻に登校しています。生活のリズム・テンポができていると感じます。 ○体育の先生方、部活動の先生方に感謝申し上げます。自己管理力や食育は保護者の責任と感じます。PTAも協力して保護者への呼びかけ研修も検討していかないといけないと思います。
		自己管理能力の向上	2.6	3.3	2.9				
		食育の推進	2.7	3.7	3.1				
	総合評価		3.0						
する人材との育成し地郷土に愛され貢献	①今住んでいる地域の行事に参加している割合50%以上を目指す。 ②小中合同研修会の確実な実施を目指す。	地域活動の積極的な発信	3.0	3.2	2.9	○地域の発信、地域人材活用、大王小との連携の3項目については概ね3に近い回答を得ている。しかし、地域社会貢献については教師、生徒、保護者ともに低い数値である。コロナ禍前に取り組んでいた地域の空き瓶・古紙回収作業がなくなってしまったことへの影響を考える。ただし、現状として、最近はエコ対策として空き瓶から紙パックへ、紙はデジタル媒体の代用などの製品に代替になったりしていることから、実質この空き瓶・古紙回収の活動自体が難しいという意見も聞かれた。	○地域活動の発信については引き続き学校HPや学校便り等を生かしていきたい。 ○地域人材の活用については本年度、キャリア教育の中で地域の講師の方々をお招きした。また職場体験の体験場所としても活用できるところがあれば積極的に活用を図りたい。 ○地域社会貢献については大王小とともに、地区祭りへの作品展示や設営準備等や地区公民館の花植えでも引き続き貢献していきたい。また、学校付近の地域清掃などでも貢献していきたい。	3.3	○地域社会への貢献活動がなされていないような評価がされているが地域社会が学校への要望等があまりないのでと考えます。また、生徒と保護者は一義的に学習と学力の向上が主体となっているものと考えます。 ○積極的に地域活動に参加している生徒は見かけます。ただ、余り多くないと思います。地域活動への生徒の参加が生徒や地域にとってどんな意味があるのか、また、学校の困り事に地域がどう関わるか熟議が必要だと思います。 ○地域との連携、様々な活動も一人一人のスキルアップに繋がることを子どもに理解させ参加させることを考えていきたいです。「昔はこうだった」とか、「コロナ前は」とかではなく今からどのようにしていかないといけないかを若い力で考えていく必要があります。人が変わらないと子どもたちも変わらないことを伝えられないことからだけの押しつけでは変わらないと思います。自分の住んでいる地域を好きになってもらうようなことを多く考えていきたい。
		地域人材の積極的な活用	3.2	3.2	2.9				
		地域社会への貢献活動	2.8	2.6	2.5				
	総合評価		2.9						